

～知られざる敵国民間人抑留所が、足柄にもあった～

第二次世界大戦中、日本に敵国民間人の抑留所があったこと自体、あまり知られていません。

1941年12月の太平洋戦争開戦日、日本に居た連合国側の国籍を持つ民間人は突然囚われ、全国各地に設けられた抑留所に収容されました。全国で340人余り、神奈川県では90人を超える「敵国人」が拘束されました。その後1942年と43年に交換船（交戦国が相互に外交官や民間人を交換するために派遣した船）が出され、一部の外国人は帰国しました。しかし海外から連行された外国民間人や、国内で活動していた修道女などの女性も抑留対象にされ、抑留者は増えていきました。日本で抑留された外国人は延べ1200人にのぼります。

1943年、戦況が厳しくなると、横浜市中区にあった神奈川第1抑留所は、北足柄村、現在の南足柄市内山に移転します。その後一部の外国人が交換船で帰国し、内山の抑留所には最終的に49人が残りました。抑留者たちは警察の厳しい監視下で日々の生活を送ります。山仕事や地元の農家の手伝いをするなど、地域の人々との交流もあったようです。

一方、戦時下の食料事情が厳しくなる中、満足な医療を受けられずに命を落とした人もいます。内山では49人中5人が抑留中に死亡。これは全国の抑留所のなかでも非常に高い死亡率で、内山での抑留生活は厳しいものであったと想像されます。旧校舎の裏側に、抑留所で亡くなった外国人の墓が今も残っており、2019年に墓碑がたてられました。

北足柄中学校跡地は、戦前カトリック修道会マリア会の山荘で、同会の設立した暁星中学校の夏の保養所（フランス人が経営）として使用されていました。戦時中は神奈川県の所有となり、1943年6月横浜から神奈川第1抑留所が移転してきました。1945年8月の終戦で外国人たちはようやく解放され、帰国または国内の居住地に帰りました。

1947年（昭和22年）学校教育法施行により、北足柄中学校が北足柄村内山745（当時）に設立され、その翌年内山2586の「三本松」（現在の場所）に移転しました。抑留所として使われていた建物2棟も1958年（昭和33年）まで学校施設として使われました。

同校は2010年（平成22年）に閉校し、現在グラウンドはキャンプ場施設「CAMPiece（キャンピース）南足柄」として民間会社が運営しています。

<旧北足柄中学校跡地へのアクセス>



*車の場合

東名高速道路大井松田ICから約20分
※獣害防止のためゲートを閉じていますので、お越しの際はご自身で開閉をしてください。カーナビ等でルートを設定する場合、「県立21世紀の森」を目指して、施設付近になりましたら、設置看板を参考にお越しください。
※徒歩ルートは地域の方以外は車で進入できません。
車ルートからお越しください

*公共交通機関の場合

伊豆箱根鉄道大雄山線「大雄山駅」下車、駅前の箱根登山バス「関本」で乗車し「上庭」下車。

上庭バス停から徒歩約15分（バス本数が少ないのでご注意ください）。またはJR山北駅から約4km、徒歩約1時間。